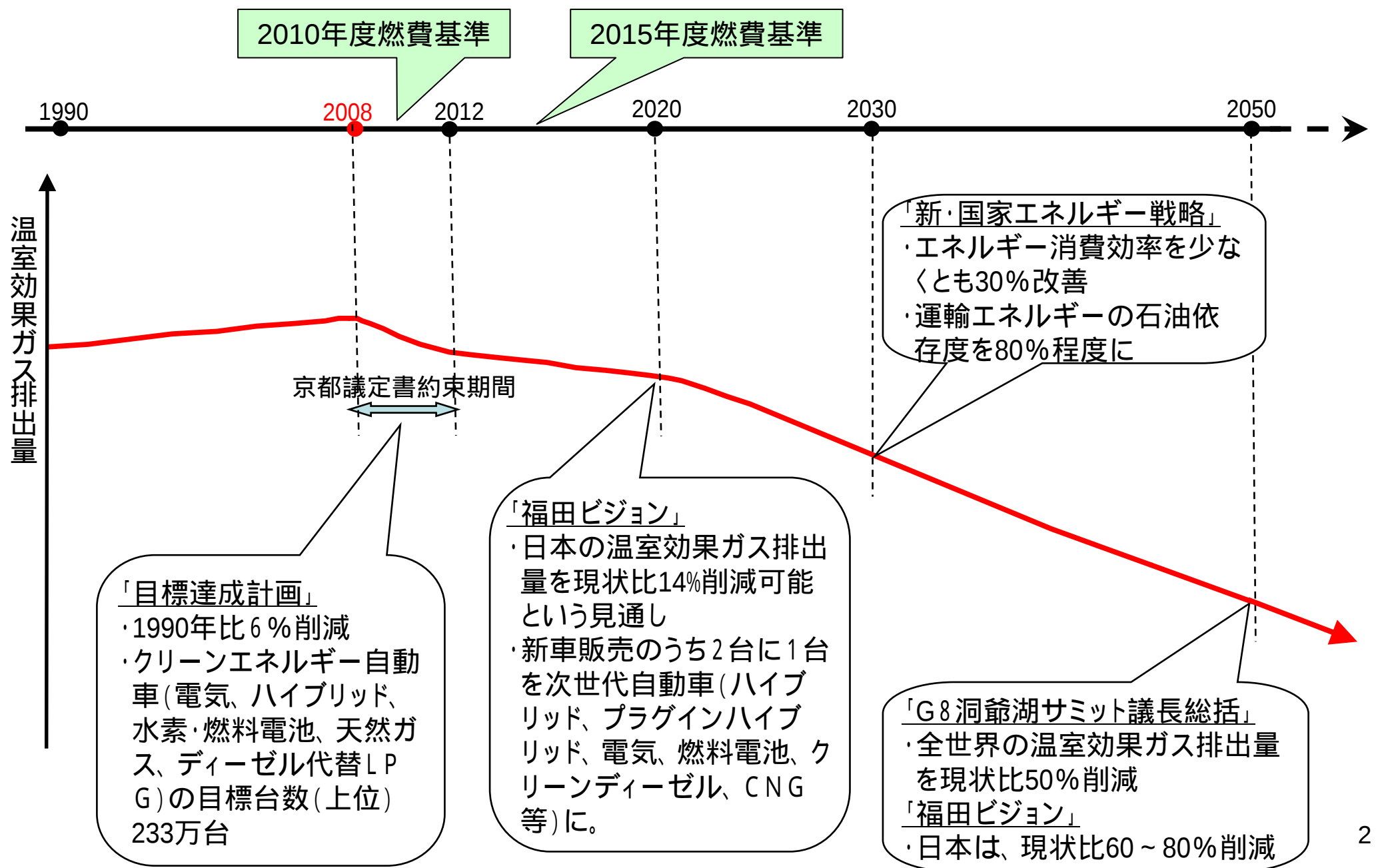


自動車の低炭素化について

自動車交通局技術安全部環境課

野津 真生



低公害車販売予定一覧表(各社の発表資料より作成)

特に、乗用車を中心として、ここ数年の間に、新しいタイプの低公害車の市場投入が活発化。

時期 構造別	2007年以前(平成19年以前)	2008年(平成20年)	2009年(平成21年)	2010年(平成22年)	2011年(平成23年)	2012年(平成24年)
クリーンディーゼル車 (Clean Diesel)		(9月)日産:Xトレイル販売 (08年中)ベンツ:クリーンディーゼル車販売(北米では09モデルとして秋に発売)	(09年中)ホンダ:アコード販売(北米に続いて) (09年中)三菱:クリーンディーゼル量産予定	(未定)トヨタ:クリーンディーゼル大型ピックアップ、SUV(米国市場) (初頭)マツダ:クリーンディーゼル車市場導入 (前半)スバル:水平対向ディーゼル車導入	(11年)マツダ:新型ディーゼルエンジンをグローバル展開	(12年までに)トヨタ:新エンジンをいすゞと共同開発
電気自動車 (EV)	(06年6月)スバル:R1e電気自動車(リチウムイオン)改造自動車(40台)		(09年中)三菱:電気軽自動車iMiEV (09年中)スバル:R1e(軽自動車)・・・年間100台程度販売	(初頭)日産:電気自動車投入 (10年半ば)スバル:R1e・・・150万円以下で販売		
ハイブリッド車 (HEV)		(6月)マツダ:水素ロータリハイブリッド(プレマシーハイドロジョンREハイブリッド)大臣認定	(初頭)ホンダ:ハイブリッド専用車販売予定(日本、北米、欧州)・・・全世界で年間20万台の販売を見込む。 (09年中)トヨタ:タイでカムリを生産予定	(10年代初頭)トヨタ:全車種ハイブリッド展開、年間販売100万台目標(全世界) (未定)ホンダ:スポーツハイブリッド車販売予定 (未定)ホンダ:フィットハイブリッド販売予定 (初頭)マツダ:ハイドロREハイブリッド市場導入 (10年度)日産:独自のハイブリッド車投入 (10年初め)トヨタ:豪州でカムリハイブリッド生産		
プラグイン・ハイブリッド車 (PHEV)				(10年までに)トヨタ:プラグイン・ハイブリッド車販売		
バイオエタノール燃料対応車 (Bio Ethanol)	(07年)E10技術指針策定	(2月)日産:E10大臣認定 (3月)トヨタ:E10大臣認定	(09年)マツダ:E85フレックスフューエルエンジンを北米及び北米市場に導入			
燃料電池車 (FCV)	(05年)トヨタ、ホンダ型式認定	(11月)ホンダ:燃料電池車リース販売(北米7月) (6月)スズキ:SX4-FCV大臣認定		(初頭)日産:燃料電池車投入		
CNG車		(08年中)トヨタ:カローラをタイで生産				
その他			(年度中)マツダ:スマートアイドリングストップ導入			

現状認識と国交省の取組

- 中長期的な温室効果ガス削減の全体目標もコンセンサスができてつつある(国民的、世界的)。
- 短期的な対策 + 中長期的な視点に立った自動車の低炭素化
 - 2015年燃費基準の早期達成をメーカーに求める。
 - 石油系燃料への依存を大幅に減らす新技術採用車の市場投入促進を図る。
 - ・ 乗用車については、メーカーの取組が加速。国交省としては、新技術に対応した性能評価方法等の基準整備を進め、円滑な市場投入を支援する。税制等のインセンティブ措置による後押しを検討する。
 - ・ 大型トラック、バスについては、メーカーの取組に加え、国交省は、次世代低公害車開発・実用化促進事業(7車種)を推進中。産学官の協力を図ることはもとより、運送事業者、地方自治体等とも連携を図り、実用性向上と、導入の先行的事例の積み上げを図る。

原油価格の高騰：
新技術採用車普及
の追い風・好機

その他、検討していきたい課題(主なもの)

- 従来燃料車について、更なる削減しろ(余地) (例: タイヤ転がり抵抗低減)。
- 新車販売の落ち込みと保有車両の高齢化 → より低炭素な車両への代替が鈍化
- メーカーの開発が進んでいない車種を中心に、中長期的な自動車の低炭素化の目標・ビジョンを関係者が共有する必要。
(例えば、電気マイクロバスがコミュニティバスとして普及したり、高齢者にも扱いやすい低炭素型超小型モビリティが原動機付自転車の代わりにパーソナルユースや宅配に活躍したりすることが思い描かれる。)